

マーケットの動き（2025年2月10日～2月14日）

先週の米国国債市場は、前週末比でほぼ横ばいでした。

FRB（米国連邦準備制度理事会）パウエル議長の発言などからFRBによる追加利下げ観測が後退したことや12日発表の1月の米国CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回ったことで米国長期金利は上昇しました。その後、週後半に発表された1月の米国PPI（卸売物価指数）などの経済指標が金利低下材料となり、前週末比ほぼ横ばいで週を終えました。

欧州国債市場は、英国金利がほぼ横ばいだった一方、ドイツ金利は上昇しました。

投資環境見通し（2025年2月）

長期金利は、米国ではレンジ内、欧州（ドイツ）では低下基調で推移

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）は政策金利を据え置くに際して、インフレ率について幾分高止まりしていることを指摘し、FRB議長は「利下げを急ぐ必要はない」と述べました。一方、新政権によるエネルギー政策や移民規制に加え、これまでの長期金利上昇による景気への影響も懸念される中、当面の長期金利はレンジ内で推移するとみています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）は4会合連続の利下げを決定するとともに、今後も利下げを継続する姿勢を示しました。米国新政権下での通商政策や経済関係の強い中国の景気減速を背景に、ドイツをはじめとして域内各国の経済が低迷していることもあり、ドイツ長期金利は低下基調で推移するとみています。

	2月14日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.48	▲0.01	▲0.31	0.64	0.22
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	601.39	1.12%	▲0.84%	1.62%	4.09%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202502_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2024年1月31日～2025年2月14日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2024年1月31日～2025年2月14日）



※2024年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成